



“北欧のフェルメール”、再び東京へ。

身近な人物の肖像、風景、そして静まりかえった室内——限られた主題を黙々と描いたデンマークを代表する画家ヴィルヘルム・ハマスホイ(1864-1916)。17世紀のオランダ絵画に影響を受け、静謐な室内表現を特徴とすることから“北欧のフェルメール”とも評される画家は、1990年代以降、パリのオルセー美術館やニューヨークのグッゲンハイム美術館などで次々と回顧展が開催され、再び脚光を浴びています。日本でも2008年に展覧会が開かれ、国内の美術ファンに強い印象を残しました。

そのハマスホイをはじめ、デンマーク近代絵画の精華を日本で初めて本格的に紹介する展覧会が2020年1月、東京で開催されます。デンマークが生んだ珠玉の絵画の数々を堪能ください。

ハマスホイと デンマーク絵画

Vilhelm Hammershøi
and Danish Painting of the 19th Century

2020年1月21日(火)ー3月26日(木)



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

主催：東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、読売新聞社 後援：デンマーク大使館

展覧会公式サイト 美術展ナビ <https://artexhibition.jp/denmark2020/>

巡回先：2020年4月7日(火)ー6月7日(日)[予定] 山口県立美術館

上：ヴィルヘルム・ハマスホイ 「室内ー開いた扉、ストランゲーゼ30番地」 1905年 デーヴィズ・コレクション蔵 The David Collection, Copenhagen

中：ヴィルヘルム・ハマスホイ 「農場の家屋、レスネス」 1900年 デーヴィズ・コレクション蔵 The David Collection, Copenhagen

下：ヴィルヘルム・ハマスホイ 「ピアノを弾く妻イーダのいる室内」 1910年 国立西洋美術館蔵[東京展のみ出品]

